

令和4年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

自ら学び，課題を解決する児童の育成

～ICTの効果的な活用を通して～



第5部会 四街道市立四和小学校

池川 麻衣子

藤塚 亜弥佳

1 研究主題

自ら学び、課題を解決する児童の育成 ～ICTの効果的な活用を通して～

2 主題設定の理由

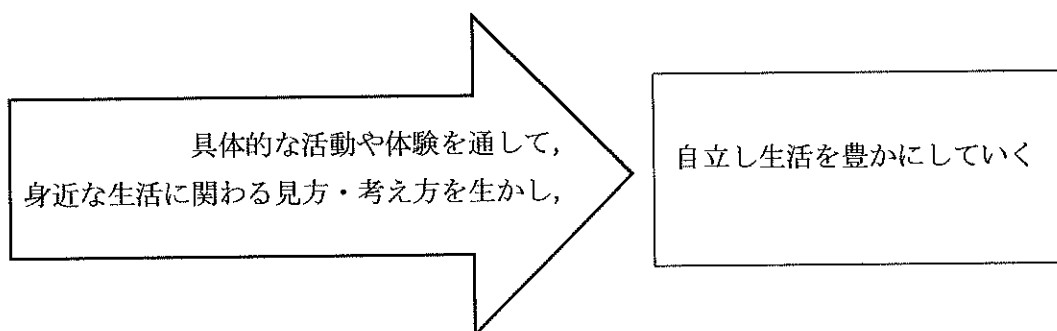
(1) 学習指導要領から

学習指導要領では、「児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色のある教育活動を展開する中で、基礎的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」としている。

生活科の教科目標では、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立した生活を豊かにしていくための資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活の場に必要習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりの中で捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科の教科目標の構成



〔育成を目指す資質・能力〕

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活の場に必要習慣や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能の基礎)
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりの中で捉え、自分自身や自分の生活につ

- いて考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力の基礎)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 社会的な背景から

Society5.0 で代表される社会は、IoTですべての人とモノがつながり、様々な知識や技術が共有される社会とされる。人工知能はより高度化され、必要な情報が瞬時に提供されるようになり、ロボットや自動運転システムの普及により、少子高齢化による労働人口の減少や地方の過疎化、貧富の格差等の問題が解決されると言われている。

また、現在新型コロナウイルスが社会を脅かし、マスクの着用、三密、ソーシャルディスタンスの徹底など、児童にはこれまでとは違う環境の中での学校生活を送っている。このような制限のある生活の中でも、知・徳・体のバランスと共に、確かな学力を通じて「生きる力」を育まなければならない。コロナ禍におかれた現状であっても、基礎的・基本的な学力の向上と共に、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることで、どんな困難も切り切る「生きて働く力」を育てる必要がある。

(3) 学校教育目標から

本校では、全児童が生き生きと活動する学校の創造を目指して、以下のような学校教育目標を掲げている。

夢や希望を持ち、心豊かでたくましい児童の育成

- 1 思いやりのある子ども
- 2 しっかり勉強する子ども
- 3 体をきたえ、がんばりのきく子ども

さらに本年度の重点事項として、

- ・児童が自分の考えや思いをもち、互いに伝え合う授業を実践し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。(学力の向上を目指す。)
- ・「互いに伝え合う」ことを手段に「課題を解決する力」を育成する。
(多様な他者と協働して問題の解決を図る能力の育成)
- ・ICTの活用により、学習指導要領にある資質・能力(情報活用能力・課題解決力等)の育成を目指す。

が設定されている。

以上のことから、基礎的な力を培い、児童が主体的に学び、共感的な態度で関わり合える場を大切に、ICTを活用した授業実践を進めていく。

(4) 児童の実態から

本校は四街道駅から近い住宅地の中にあり、今年で開校47年目を迎える。現在は、全校児童が525名（各学年3学級18＋特別支援学級2学級）の中規模校である。家庭環境に比較的恵まれ、教育環境も整った家庭が多い。また、精神的に安定していて、素直で明るい児童が多い。しかし、「自分にはよいところがある」という問いに対し、当てはまると回答する割合が低く、自尊感情をいかに高めていくかが課題である。また、自分の思いや考えを伝え合うための共感的理解もさらに高めていく必要がある。

以上、学習指導要領・学校目標・地域や児童の実態を踏まえ研究主題を設定した。

3 仮説について

研究主題にせまるため、本研究では、2つの仮説を設定した。

<仮説1>

交流の場や方法を工夫して設定し、一人一人の気づきを伝え合えるような指導の工夫をすれば、気づきの質が高まり、伝え合う力を高めることができるようになるだろう。

(手立て)

①個々の気づきを伝え合い交流し合う場の工夫

- ・ 目的意識、相手意識をもった学習計画
- ・ 発見カードの常時掲示による児童相互の気づき（みんなの発見掲示板）
- ・ 友達との気づきの共有や交流の場の設定（タブレットで撮影した画像や動画の共有や活用）★ICTの活用
- ・ アドバイスカードの活用（動画を見て振り返り、発表の仕方や説明を試行錯誤する活動）★ICTの活用

②表現活動の工夫

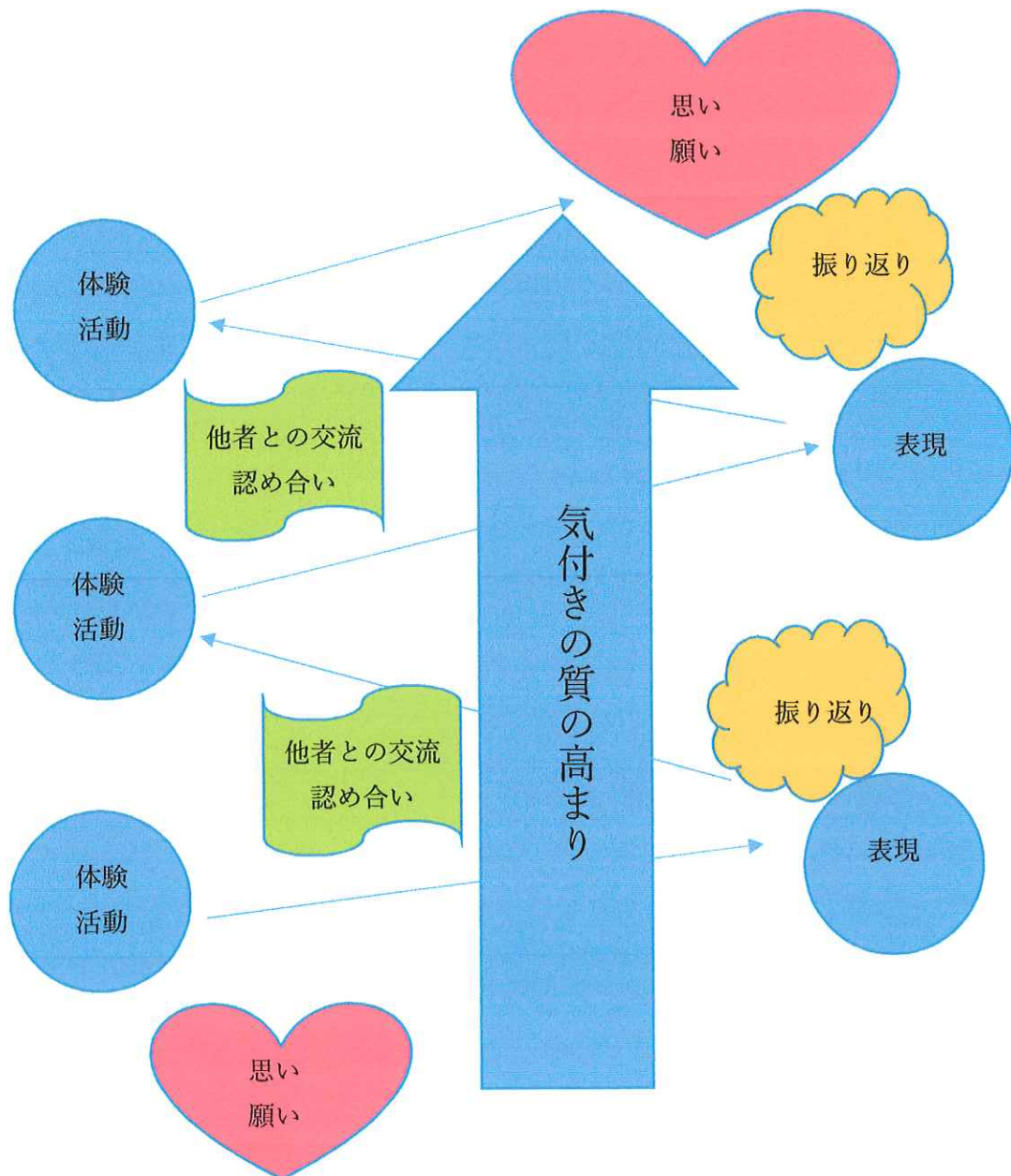
- ・ 表現活動の仕方の提示
 - ・ オクリンク（画像・動画を編集し、テレビに映す）
★ICTの活用
 - ・ 紙芝居（絵や言葉で表す）
 - ・ 新聞（絵や言葉で表す）
 - ・ 絵地図（絵や絵地図で表し説明する）
 - ・ 劇（インタビューの様子を劇化する）
 - ・ ペープサート（劇化する）
- ・ 振り返り表現する活動（自らの活動を見つめ直したり、過去のことや周りのことと比べたりする）
 - ・ 発見カード、ワークシートの工夫

- ・～みたいに (たとえる)
- ・～くらい (比べる)
- ・「いいね」「そうだね」「なるほど」など認め合う言葉掛け
(イメージを広げる)

③ 試行錯誤や繰り返す活動を設定する

- ・自分で考え, 作成失敗も繰り返す中で, 気づきを高める

気づきの質の高まり



<仮説2>

ICTを効果的に活用することにより、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合うことを手段に課題を解決する力を育成することができるであろう。

(手立て)

ICTを効果的に活用していく。

①画像や動画を撮影する。

タブレットで画像や動画を撮影する。許可を得たものだけ撮るようにする。

②情報を共有する

撮影した画像をミライシードのオクリンクの提出箱のフォルダに入れる。学年みんなが自由に使えるように情報を共有する。撮影してきた画像や動画を見て、活動を振り返ったり、友達に気付いたことを紹介したりする。画像や動画を活用して発表資料を作成する。

③画像をつなげる

選んだ画像の並べ方を考え、カードをつなげる。つなげた画像に合わせて発表原稿を作成する。

④画像に書き込む

手書き機能やフリック入力を用いて、画像の見てほしいポイントに丸を付けたり、キーワードを書いたりして、スライドを仕上げる。

⑤スライドを提出する

提出箱にスライドを提出する。スライドをテレビに映し、発表の練習をする。発表練習の様子を動画で撮影して振り返る。

⑥発表をする

作成したスライドをテレビに映しながら、発表を行う。聞く人が分かりやすいように、矢印で指したり、写真をズームして見せたりする。

4 実践例

1 単元名 わたしの町はっけん

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定されたものである。

- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり、働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使う物があることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

1学期に実施した町探検では、学区を歩き、公園や自然、働いている人々、町の安全を守っている人について地図に見付けたことをまとめてきた。

本単元では、町を探検する活動を通して、施設やそこで働いている人々について考えることができ、自分達の生活は、様々な人や場所とかかわっていることが分かり、地域に親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることや町の人とかかわる活動を通して、町の人と進んでふれ合い交流しようとすることをめざしている。

導入では、公園探検や毎日の通学路、普段の遊び場や買い物に行く店などを想起させ、お気に入りの場所を話し合い、自分たちの生活が地域と結びついていることに気付かせる。さらにみんなのお気に入りの場所を確かめに学校周辺を探検することで、町にある様々な店や公共施設を新たに発見したり、調べてみたいという意欲を高めたりできるようにする。興味をもった店や公共施設について見学やインタビューなどの探検活動を行わせる。自分が住んでいる地域にある店や施設、そこで働く人のすてきなところに気付き、地域への親しみや愛着を深め、人々と適切に接することができるようにしていく。

本単元は、第3学年の社会科の地域学習や総合的な学習の時間につながっている。

(2) 児童の実態 27名(男子13名 女子14名)

本学級の児童の多くが生活科の学習を好きと感じている。春の町探検や虫とりや野菜

の栽培など、生活科の活動自体が児童にとって魅力的な学習となっており、意欲的に取り組んでいることが分かる。

みんなと学習できて楽しい、発見があるから楽しいという理由があげられた。学校の周りの地区で、自慢したい場所があるかという問いには、公園と答えた児童が8名であった。

「お祭りをする公園」と書き、「和良比が丘公園」という正しい呼び名を書けなかった児童が2名いる。ドンキホーテやセブンイレブン、ティンカーベルなどの店の名前をあげた児童が6名いるが、その他の児童は、分からないという答えであった。児童にとって、店や公共施設や地域の伝統的な行事はあまり身近な存在ではないことが分かった。自慢したい人がいるかという問いには、どんぐりの森のスタッフ、ティンカーベルの店員さん、近所の人という答えのみで、思い浮かばなかった児童がほとんどであり、地域の人との関わりも薄いということが分かった。コロナ禍の影響で、地域の行事も中止になっており、行事については、分からないという答えが多かった。

調べたことをみんなの前で発表することが好きだと答えた児童は60%、どちらかという嫌い・嫌いと答えた児童が40%であった。みんなの前での発表を苦手と感じている児童が多い。町探検で調べたことをどのような方法で発表したいかについては、タブレットを使って発表したいと答えている児童が3名いる。写真をとってテレビにつないで発表したい1名、1年生に学校案内をしたように動画を撮影して発表したい1名、クイズにして発表したい1名であった。ほとんどの児童は、発表方法について具体的なイメージをもっていない。まとめ方や発表方法については、誰にどのように伝えるかという目的意識をもたせて、丁寧に指導する必要がある。

ICTに関わる調査より、タブレットを使った学習は、全員が好きと答えている。家でタブレットやパソコンやスマートフォンを使っている児童は84%で、1日に30分以上使っており、ゲーム、ユーチューブで動画を見る、音楽を聴く、分からないことを調べるために使うという答えが多かった。普段家でもICT機器を操作しており、操作には慣れていることが分かった。その一方で、タブレット操作に自信がないという児童もいる。児童は、これまで、タブレットで動画を撮影し、1年生に学校案内をしたり、栽培した野菜の写真を撮影しオクリンクで順番につないで成長を記録したりしてきた。教科書やドリルのQRコードを読み取り練習問題を解くサイトに行ったり、ミライシードのドリルパークで練習問題を解いたりすることができた。図工で制作した作品や絵日記を撮影し、オクリンクで提出したものをテレビに写しながら発表することもできた。

(3) 指導観

こうした実態から、単元の導入では、自分たちが生活する町の好きな場所や人を紹介し合う活動を通して、地域についてもっと知りたいという気持ちを高める。その上で興味をもった店や施設毎にグループを作り、それらの店、施設やそこで働く人々にはどんなすてきなところがあるのかを確かめに出かける計画を立てる。

探検活動では、タブレットを使用し、許可を得てから画像や動画を撮影する。探検後は、記録した画像や動画を見返して考えをまとめることや友達と情報を共有することを通して、自分達の住む地域への関心を高めていきたい。発見カードを用意し、見付けたことや気付いたことを「みんなの発見掲示板」に掲示するようにする。掲示しておくことで、いつでも振り返ることができ、気付きを交流させることができるようにしていきたい。

クイズ、ポスター、紙芝居や画像をオクリンクでつなげて発表する方法、画像をテレビで拡大して見せながら発表する方法など ICT を使った発表も取り入れて発表方法を工夫していきたい。また、発表に消極的な児童が多いため、相手意識や目的意識をもたせたり、様々な表現方法を取り入れたりしながら、意欲を高めて楽しく伝え合い活動ができるよう工夫していく。また、学年全体で交流の場を設けることにより、表現方法を学び合わせたり、地域について深く考えたり、気付きを広げたりしていきたい。一人一人の伝え合う活動を大切に、友達の発表を聞いたり、感想を伝え合ったりするなど交流する時間を確保することにより、自分が今まで知らなかった「町のすてき」を知り、地域を誇りに思う気持ちや友達のよさを認める心を育んでいく。さらに、探検前よりも地域のことを深く知り、関わりが豊かになった自分の成長に気付かせ、これからも積極的に地域に関わってほしいという気持ちにつなげたい。

(2) 仮説とのかかわり

<仮説1>

交流の場や方法を工夫して設定し、一人一人の気付きを伝え合えるような指導の工夫をすれば、気付きの質が高まり、伝え合う力を高めることができるようになるだろう。

グループに1台タブレットを持たせ、すてきだなど思った画像を撮影してくるようにする。児童は、振り返りの場面で、画像を見ながら情報を共有することができ、意欲の継続や振り返りにもつながる。探検後は、グループの友達と情報を交換したり、比較したりしていき、活動で得た情報や気付きを豊かにしていく。そして、探検をして見付けたことや分かったことや出会った人を発見カードに書き、可視化していく。「みんなの発見掲示板」に掲示するようにする。掲示しておくことで、いつでも振り返ることができ、気付きを交流させることができるようにしていく。

また、発表練習の様子をタブレットで撮影し、自分の姿を見て振り返って自己評価をしたり、友達にアドバイスする相互評価をしたりして改善を行い、伝え方を上達させていくことによって、学びを深めていく。

発見した「町のすてき」を学年の友達に発表するという目的や相手意識をもたせ、表現活動の仕方を提示する。クイズ、ポスター、紙芝居や画像をオクリンクでつなげて発表する方法など ICT を使った発表も取り入れて発表方法を工夫していく。

<仮説2>

ICTを効果的に活用することにより、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合うことを手段に課題を解決する力を育成することができるであろう。

タブレットを活用していくにあたり、以下の手順に従う。(ICTの活用)

①探検へ行き、画像や動画を撮る。

グループに1台のタブレットを持たせて探検に出かけ、「すてき」だと思った場所やもの、人の画像や動画を撮影する。許可を得たものだけ撮るようにする。

②情報を共有する

探検先で撮影した画像をミライシードのオクリンクの提出箱のフォルダに入れる。学年みんなが自由に使えるように情報を共有する。撮影してきた画像や動画を見て、探検を振り返ったり、友達に気付いたことを紹介したりする。画像や動画を活用して発表資料を作成する。

③画像をつなげる

選んだ画像の並べ方を考え、カードをつなげる。つなげた画像に合わせて発表原稿を作成する。

④画像に書き込む

手書き機能を用いて、画像の見てほしいポイントに丸を付けたり、キーワードを書いたりして、スライドを仕上げる。

⑤スライドを提出する

提出箱にスライドを提出する。グループのスライドをテレビに映し、発表の練習をする。発表練習の様子を動画で撮影して振り返る。

⑥発表をする

グループごとに、作成したスライドをテレビに映しながら、発表を行う。聞く人が分かりやすいように、矢印で指したり、写真をズームして見せたりする。

3 単元の目標

- ・自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わりをもっていることが分かり、地域のよさに気付くことができる。

(知識及び技能の基礎)

- ・地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わり、人々と適切に接することや安全に生活することについて、自分なりに考えたり、振り返ったりして、それを工夫して表現することができる。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

- ・地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所に関心をもち、親しみや愛着をもって、人々と適切に接したり安全に生活したりしようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画（33時間扱い）

小单元「町にははっけんがいっぱい」

10時間

- ・春の町探検を思い出し、自分が好きな場所や人をカード書く。 1
- ・カードを紹介し合う。 2
- ・町探検に出かける計画を立てる。 2
- ・グループごとに町探検をする。 2
- ・町探検で見付けたことや出会った人について発見カードに書き、情報交換をする。 3

小单元「みんなのはっけんをあつめよう」

10時間

- ・友達の発見を聞いて、もっと知りたいことやもっと調べたいことをまとめる。 3
- ・調べる計画を立てる。 2
- ・（電話やファックスや動画を使い）2回目の質問をする。 2
- ・発見した町のすてきやすてきな人の情報交換をしてまとめる。 3

小单元「町の人につたえたい」

13時間

時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点）【評価方法】
1 2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・発見した町のすてきを発表する方法や内容を相談して、その準備をする。 ・絵地図 ・クイズ ・紙芝居 ・ペープサート ・オクリンク ・画像をテレビで拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表資料を進んで準備している。 （主体的に学習に取り組む態度） 【行動観察】 ○発見を伝えるために、いろいろな発表の仕方があることが分かっている。 （知識・技能） 【行動観察・発言】
6	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に伝わるように、内容や方法を工夫しながら準備したり、発表練習をしたりしている。 （思考・判断・表現） 【発言・作品】
7 8 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで撮影した発表動画を見て、振り返る。 ・他のグループの友達に発表して、 	<ul style="list-style-type: none"> ○町で働く人々や店や施設の様子が友達に伝わるように、伝え方を工夫している。 （思考力、判断力、表現力）

	<p>アドバイスをもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったことやアドバイスを付箋に書く。 (よかったこと) ピンク色付箋 ・よく分かったこと (アドバイス) 水色付箋 ・よく分からないこと ・うまくできていないこと ・もっと知りたいこと ・アドバイス (工夫すること) 黄色付箋 ・もっとこうの方が伝わる 	<p style="text-align: right;">【発言・作品】</p> <p>○自分たちが探検した店や施設、働く人のすてきなところを友達と伝え合おうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p style="text-align: right;">【行動観察】</p>
<p>9 10</p>	<p>・自分たちの町の発見を伝える発表会をする。 (学年発表会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察署 ・新聞販売店 ・ケーキ屋 ・ハンバーガー屋 ・スーパー1 ・郵便局 ・中学校 ・タイヤ販売店 ・児童館 ・スーパー2 	<p>○相手の気持ちを考え、表情やしぐさなどで気持ちを伝えている。 (思考・判断・表現)</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・つぶやき】</p> <p>○同じグループの友達と協力して、発表しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p style="text-align: right;">【つぶやき・行動観察】</p> <p>○店や施設、町で働く人々のすてきなところ、自分達が住む地域のよさに気付いている。 (知識・技能)</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート】</p>
<p>11</p>	<p>・町探検でお世話になった人にお礼の手紙を書く。</p>	<p>○お世話になった人に進んで自分の気持ちを伝えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p style="text-align: right;">【手紙】</p>
<p>12 13</p>	<p>・調べたことをもっと町の人に広げるためにはどのようにしたらよいかを考え合う。</p>	<p>○親しみや愛着のある場所や人が増えたり、人々と適切に接することができるようになったりした自分に気付いている。 (知識・技能)</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・発言】</p> <p>○地域の場所や人々への親しみや愛着をも</p>


		って、それらのよさを大切にしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【行動観察・発言】
--	--	---

5 本時の指導 (8 / 13)

(1) 評価基準

- ・町で働く人々や店や施設の様子が友達に伝わるように、伝え方を工夫している。
 (思考力, 判断力, 表現力)
【発言・作品】
- ・自分たちが探検した店や施設, 働く人のすてきなところを友達と伝え合おうとしている。
 (主体的に学習に取り組む態度)
【行動観察】

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価【方法】	資料
2	【見いだす】 1 前時までの活動を振り返り, 本時学習のめあてを確認する。	・町のすてきを伝えるために発表の準備をしてきたことや, 他のグループからアドバイスをもらったことを振り返らせ, 活動への意欲付けを行う。	掲示物
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">町のすてきを分かりやすく伝えよう</div>		
		・めあてや活動が明確になるように, 読ませる。 ・学習の流れを確認する。	掲示物
20	【自分で取り組む】 2 各コーナーに分かれて前半のチームが発表する。 ・発表を聞くチームの一人がタブレットで発表動画を撮影する。		タブレット

(ICTの活用)

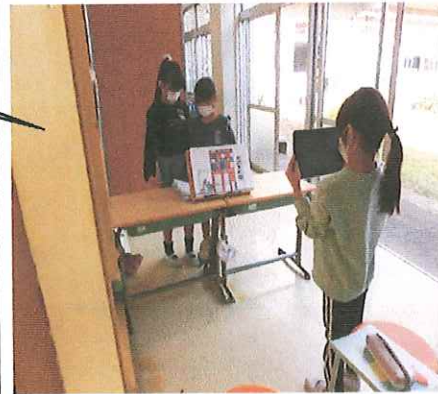
最後に、クイズです。

タブレットを使って発表

これから撮影しますね。
はい、どうぞ。

発表の様子を動画で撮影

- ・聞くチームの児童は、発表を聞いた後にアドバイスを付箋に書く。
- ・アドバイスをくれた友達に感想やお礼を伝える。
 - ・「画像を見せてくれたから、よくわかりました。」
 - ・「〇〇さんが教えてくれたようにしてみます。ありがとう。」



- ・個の気づきを伝えることができるようにアドバイスカードの項目に付箋を貼っていく。
- 町のすてきを友達と伝え合おうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

【行動観察・発言】

- ・友だちがくれたアドバイスをしっかり聞けるようにする。
- 友達に伝わるような分かりやすい表現で発表したり、アドバイスを考えたりしている。

(思考力, 判断力, 表現力)

【付箋・発言】

大型テレビ

アドバイスカード

アドバイスカードを書く



アドバイスありがとう。
もう少し説明を増やして
分かりやすくしてみるね。

お店の売り場の
大きな絵地図が分かりや
すかったよ。

クイズの答えの説明がもう少し
あるといいな。
説明をくわしくしてみたらいいよ。

後半のチームが発表する。



ペープサートでの発表

- ・一人でうまく発表することができない児童には助言する。
- ・発表することが困難な児童には、できることで参加をするよう助言する。

お店の〇〇さんが教えてくれました。

- 10 3 撮影された発表動画を見たり、アドバイスカードを読み合ったりして自分達の発表を振り返る。

(ICTの活用)

- ・グループごとに話し合い、アドバイスカードに書かれていることや他のグループの発表を聞いたことをもとにもっと工夫できそうなことを話し合う。

- ・発表動画やアドバイスを見直し、もっと工夫できそうなことを見付けられるよう支援する。
- ・他のグループの発表のよかったところや面白かったところなど、自分たちにも取り入れられることはないか考えさせる。
- ・話し合いが進まないグループには、声を掛け、一緒に考えられ

- ・「ここは、もっとくわしく絵に描いて伝えよう。」
- ・「もう少し画像を大きくした方が見えやすくなるね。」
- ・「もう少し大きな声でゆっくり話した方が伝わるね。」
- ・工夫するところを黄色の付箋に書く。

グループでの話し合い



るようにする。

- ・友達にもらったアドバイスカードをもとにもっと分かりやすい発表をすることができるようになるための工夫を話し合わせる。 (仮説1)

どうしたらもっとよい発表になるかな。黄色の付箋に書こう。

絵が上手で分かりやすいってみんなが言ってくれたよ。もう少し絵を増やしてみよう。

【広げ深める】

10 4 グループごとに考えたことを発表する

- ・本時を通して気付きの質が高まったと評価する発言例 (期待される発言例)
- ・「クイズが難しすぎて分からないとアドバイスをもらったので、答えを3つから選ぶようにしてみます。」
- ・「画像に文字を入れて分かりやすくしてみます。」
- ・「〇〇グループの発表は、絵や写真がたくさんあって、分かりやすかったです。」

【まとめあげる】

- ・他のグループの良かったことについても発表できるようにする。



友達からアドバイスをもらえたので、次に直したいです。

3	5 本時のまとめをし、次時の活動を確認する。	・「町のたから発表会」への期待をもてるような声かけをする。
---	------------------------	-------------------------------

(3) 板書計画

② 町のすてきを分かりやすくつたえよう。

学習の流れ

アドバイスカードの書き方

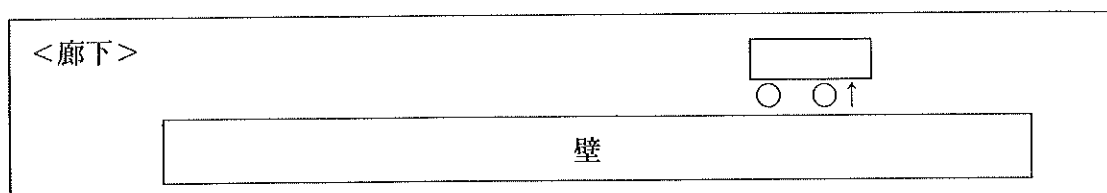
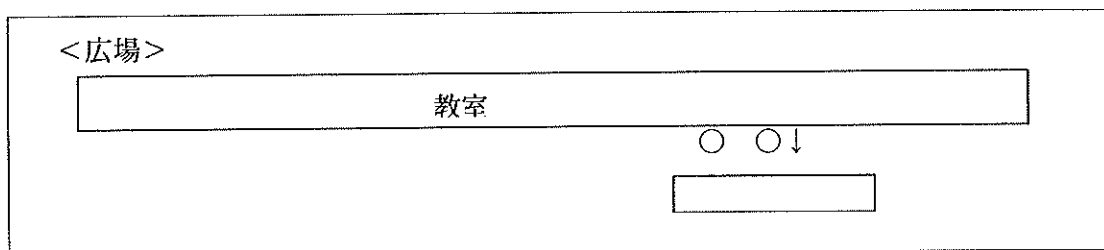
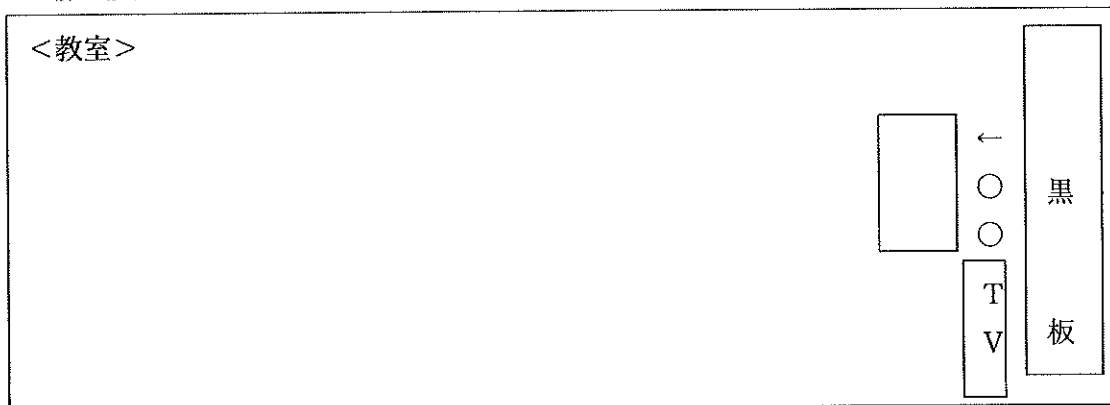
<よかったこと>

- ・がぞうや絵がわかりやすい。
- ・大きな声ではっきりつたえていた。
- ・クイズが面白い。

<くふうするとよいところ>

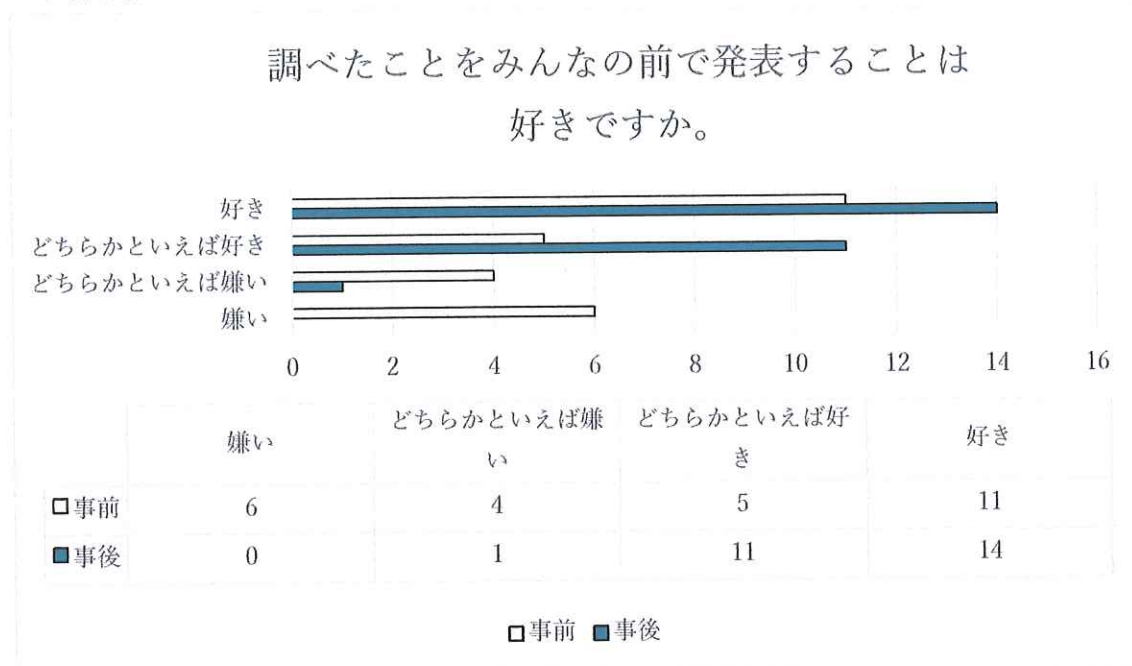
- ・がぞうにキーワードがあるとよい。
- ・もっとくわしくせつめいした方がよい。

6 場の設定



5 児童の変容

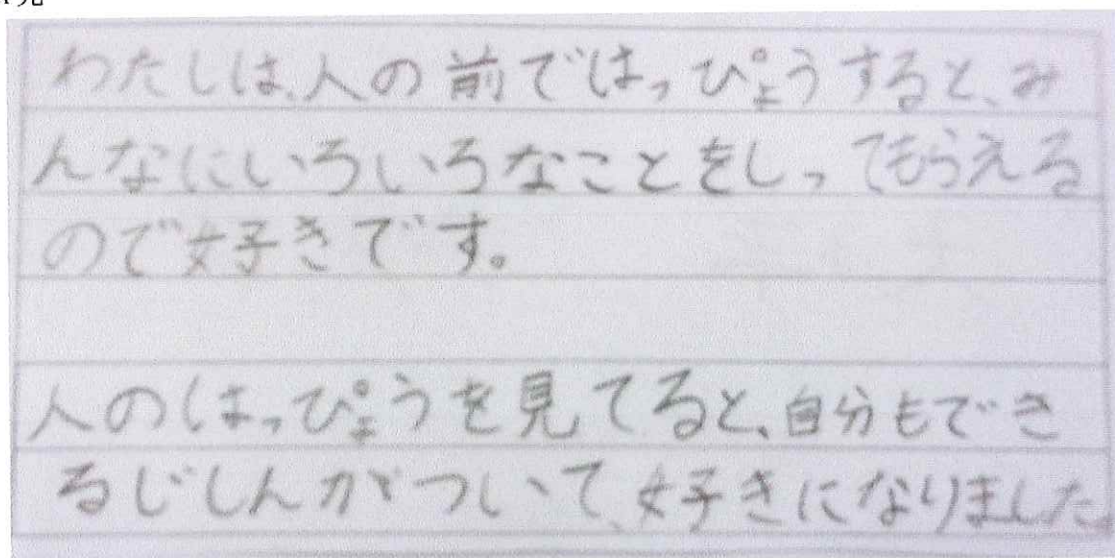
☆事前事後のアンケート結果からの分析



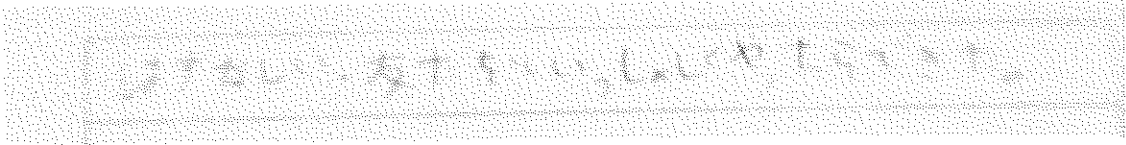
事前調査の時点で、みんなの前で発表することが嫌い・苦手とする児童が4割と多い状況だったが、「町のすてき発表会」の後の事後調査では、好き・どちらかといえば好きと答えた児童が大半となり、友達と協力して資料を作ったり、発表したりする楽しさを味わうことができたと考えられる。「発表するとたくさんの人に知ってもらえてうれしい。」「タブレットを使った発表では、だめだったところを直して、もっと練習して発表会本番にのぞんだから好きになった。」という理由も見られた。

<事後アンケートから>

A児



B児



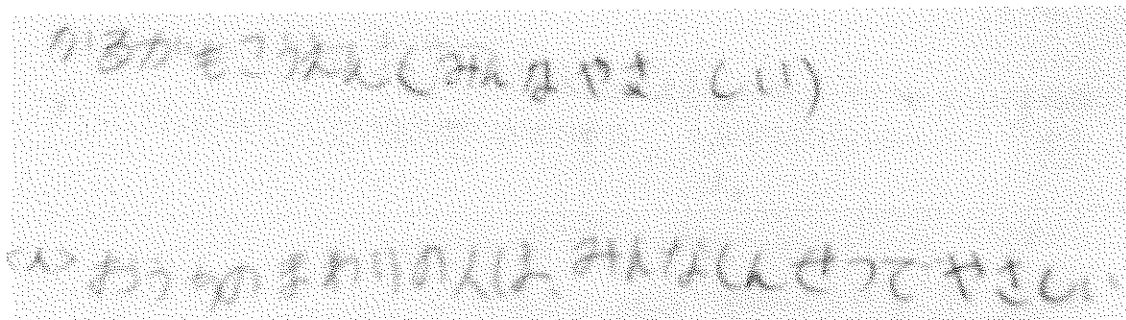
事後もみんなの前での発表は、恥ずかしいから「どちらかというの嫌い」と答えている。「友達と一緒に発表したらできた」とも答えており、自信につながったのではないかと考えられる。

気付きについて

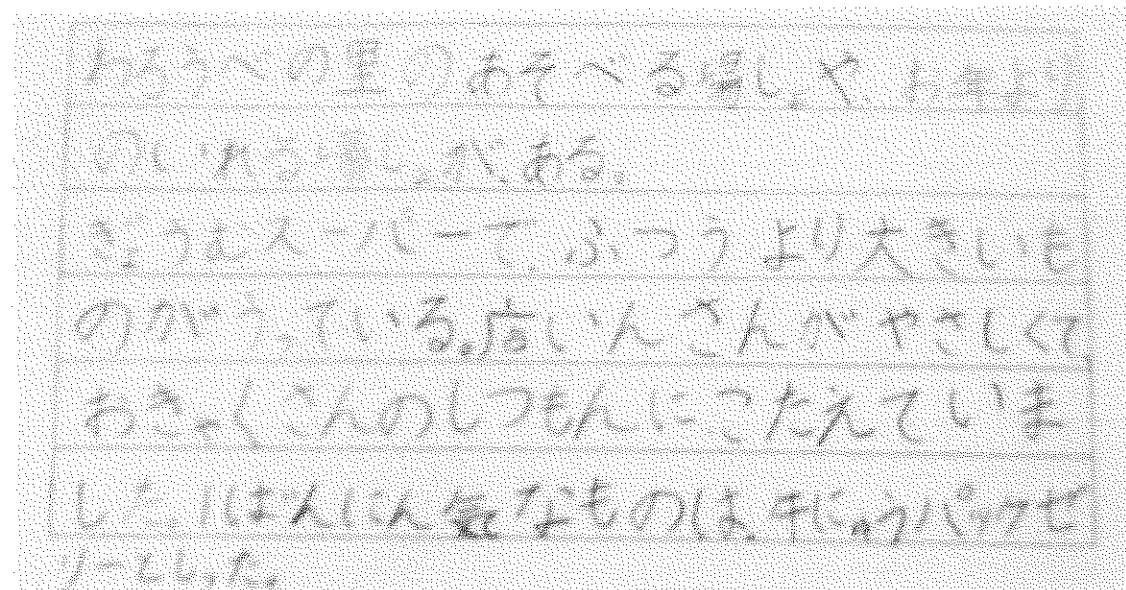
「学校の周りの地区で、自慢したい場所や人、物、行事がありますか。」という問いに対して、事前では、児童にとって、店や公共施設や地域の伝統的な行事はあまり身近な存在ではなかったが、事後では、全員が自慢したい場所、人について答えることができた。

A児

<事前>



<事後>

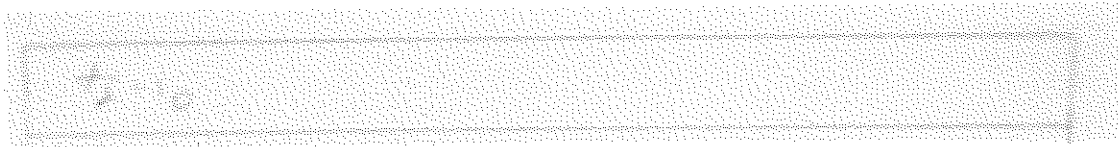


事前では、自分の家の近くにある公園のみをあげていたが、単元の学習を通して、自分が

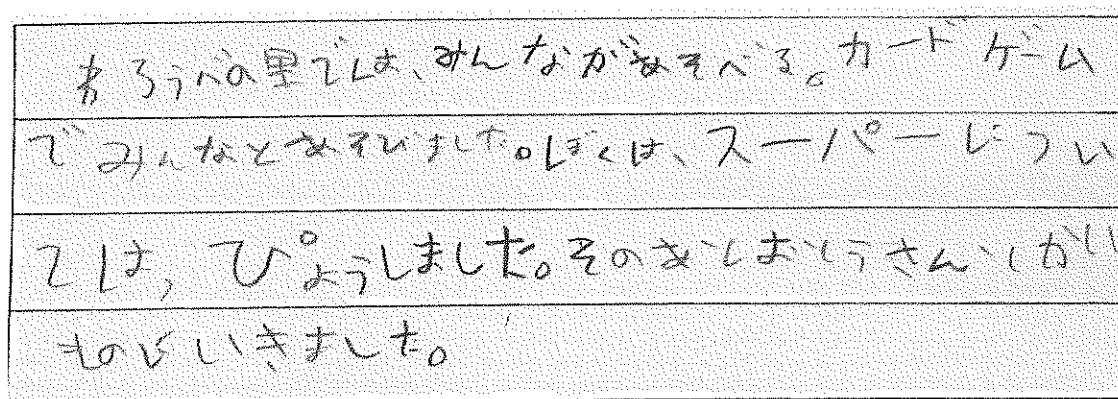
探検先で出会ったスーパーの店員さんのやさしさや店の特長などに気付き、見聞を広げていることが分かる。

B児

<事前>



<事後>



事前では、自慢できるものは「ない。」と答えていたが、事後では、友達が発表した「児童館」を挙げている。学習の後に、父親と一緒に自分が調べたスーパーを訪れている。実際の生活の中での意欲を高めていると考えられる。

ICTについて

1年時では、ペインティング機能で絵を描く、写真や動画を撮る、教科書やドリルのQRコードを読み取る、ドリルパーク、ヤフーキッズのゲームなどができるようになった。

2年時では、ミライシードのオクリンクで育てた野菜の画像をつなげ成長記録を作る、1年生に学校を紹介する動画を作成する、図工の作品を撮影した画像をミライシードのオクリンクでカードを作成し鑑賞会を行う、生活科の町探検発表会では、カードを作成し発表資料を作る、チームスでのオンライン授業、スクリーンショットを撮るなどができるようになった。

3年時の現在では、インターネット検索→スクリーンショットをしたものをトリミング→オクリンクでカードを作成し総合的な学習の時間の発表資料を作る、グループで発表資料を作成する時に、個々のメンバーが作成したものをリーダーあてに送り、一つにまとめ、グループの発表資料を作成するなどができるようになった。毎週末にタブレットを家に持ち帰り、ドリルパークなどの個別学習に取り組んでいる。

6 成果と課題

<仮説1>

交流の場や方法を工夫して設定し、一人一人の気付きを伝え合えるような指導の工夫をすれば、気付きの質が高まり、伝え合う力を高めることができるようになるだろう。

<成果>

- はっけんカードを「みんなの発見掲示板」に貼り、掲示しておいたので、いつでも振り返ることができ、気付きを交流することができた。発表資料作りにも役立った。
- 発表練習の様子をタブレットで撮影し、自分の姿を見て振り返って自己評価をしたり、友達にアドバイスする相互評価をしたりして改善を行い、伝え方を上達させることができた。
- どのような観点で振り返りカードやアドバイスカードを記入したらよいかを提示し、活動での気付きを記入しやすくした。色別に記入したことにより分かりやすかった。
ピンク…よかったこと 青…アドバイス 黄…アドバイスをうけて改善した方がよいこと

<課題>

- 感染対策をして安全に町探検を行うことができたが、コロナ禍で町探検に行ける場所や回数が減ってしまったり、人数を少人数にしなくてはいけないなどの条件があったりして十分な探検ができなかった。
→探検先の方々と動画でやりとりをするなど、交流の仕方を工夫していく必要があった。
- 学年内での発表会は行ったが、感染防止のため学習発表会や授業参観や他学年との交流が中止になってしまったので、相手意識が薄くなってしまった。

<仮説2>

ICTを効果的に活用することにより、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合うことを手段に課題を解決する力を育成することができるであろう。

<成果>

- 児童がタブレットの学習に慣れ、学習意欲の高まりが見られた。
- 画像や動画が共有できることで、探検後の記憶が曖昧な児童にとって、いつでも振り返ることができ、発表資料作りに役立った。
- 紙芝居や模造紙などに字や絵で表現することが苦手な児童でも意欲的に取り組み、短時間で発表資料を作成することができた。
- 写真などの画像を使って他者と交流することで、自分の考えを他者に説明したり新たな気付きが生まれたりした。

<課題>

- ICTを「使うこと」が目的にならないように、ICTを効果的に活用できる学習場面と活用方法を整理していく必要がある。
- 撮影した画像をオクリンクでカードをつなげて発表する方法は、資料は簡単にできる反面、表現の多様性が限定されてしまう。児童自身が自分で表現方法を工夫し、説明する言葉を大切にしていける必要がある。
- 画像の撮影のルールや著作権などを情報モラルとして指導していく必要がある。

ICTの活用 資料編 <授業実践より>

タブレット使用機種 FUJITU ARROWS Tab

①探検に行き、タブレットで画像や動画を撮る



スーパーにて質問タイム

グループに1台のタブレットを持たせて探検に出かけ、「すてき」だと思った場所やもの、人の画像や動画を撮影する。事前に許可を得たものだけを撮影する。お客さんや利用している方は撮影しない。うつらないようにして撮影する。



タブレットで「すてき」を撮影する。

②情報を共有する

探検先で撮影した画像を「ミライシード」の「オクリンク」の提出箱のフォルダに入れる。学年で共有できるようにフォルダの中に入れて保存する。

<ミライシード>

→

<オクリンク>



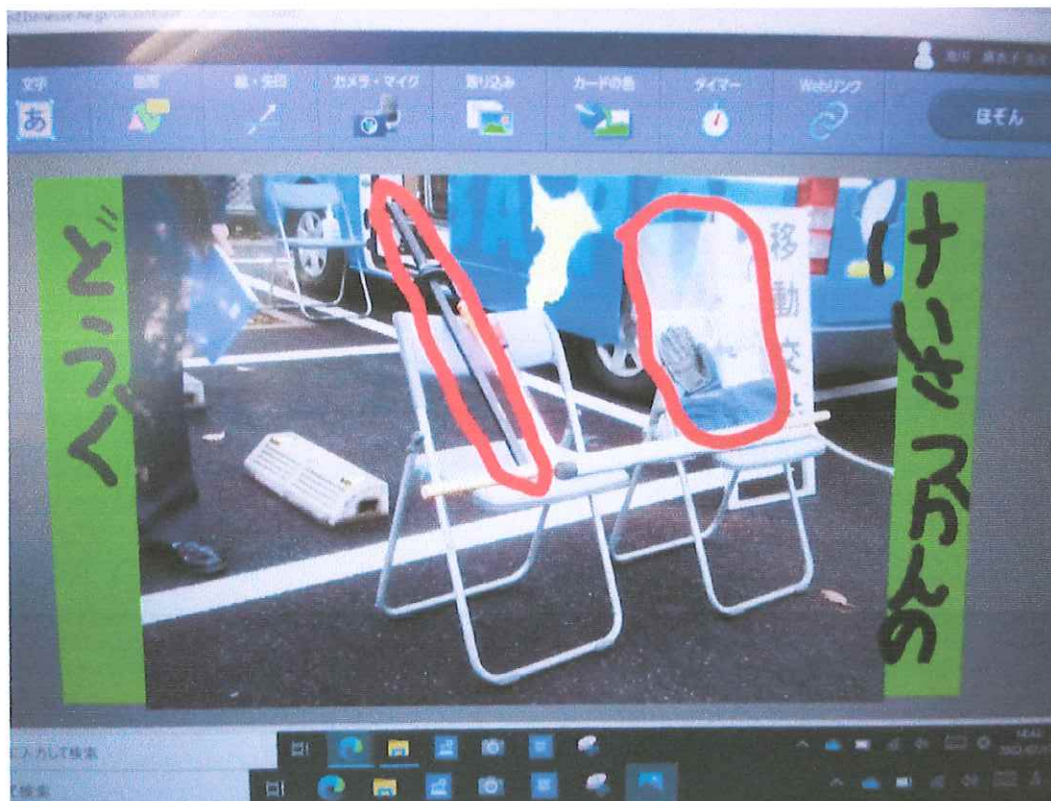
③画像をつなげる

選んだ画像をつなげ、発表資料を作成する。



④画像に書き込む

手書き機能を用いて、ポイントに印を付けたり、キーワードを書いたりする。



2年生では、ローマ字入力ができる児童は少ない。手書き機能やフリック機能を用いて文字を入力して見出しを作る。

⑤スライドを提出する

提出箱に作成したカードをつなげたもの（スライド）を提出する。グループのスライドをテレビに映し、発表の練習をする。

発表練習の様子を動画で撮影して振り返り、反省する。



発表練習を撮影する。

（大きな声で発表しないと音声が入りづらいことがある）

→**改善点**…机の上に固定して近くで撮影したらよい



自分の発表動画を見て、改善点を話し合う。

⑥発表する

グループごとに、作成したスライドをテレビに映しながら発表を行う。聞く人が分かりやすいように、矢印で指したり、写真をズームしたりして見せたりする



オクリンクで作成したカード（スライド）をテレビに大きく映して発表する。

（フリック機能で文字を入力している）

ICT 活用実践例

2年生「春はっけん」

2年生の生活科ICT実践例

「学校案内動画を作ろう」



2年生「つくる楽しさはっけん！」

2年生の生活科ICT実践例

「おもちゃパワーアップ」会議



動画で友達のおもちゃの動きがよくわかるな。



こうすればいいんじゃない？

ここがうまくいなくて…
どうすればいいかな。